

第3回 伊東市教育問題懇話会 会議録

- 1 日 時 令和6年11月11日（月） 午後2時00分～午後4時01分
- 2 場 所 伊東市役所低層棟 3階伊東市議会第2委員会室
- 3 出席委員 7人（篠原峰子委員、飯塚啓太委員、石井照市委員、稲葉雅之委員
関野耕一委員、利岡正基委員、吉田勇輝委員）
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 教育長 高橋雄幸、教育部長 浜野義則、教育部次長兼教育総務課長
杉山宏生、教育指導課長 森田まり、教育総務課課長補佐 掬川宗範
- 6 会議の経過

篠原会長：皆さんこんにちは。定刻になったので、ただいまより第3回伊東市教育問題懇話会を開会する。まず事務局より、諸般の報告がある。

事務局：（配布資料の確認）

本日の会議は午後4時までの2時間を予定している。

篠原会長：議題に入る前に、会議の公開についてお諮りする。伊東市教育問題懇話会設置要綱第5条第4項により、会議は公開にて行いたい。御異議ないか。

（「異議なし」の声）

篠原会長：御異議なしと認め、公開により行う。それでは議題に入る。議題(1)「市街地近郊の住宅地区（大池小、南小、南中、門野中）の概況・今後の見通しについて」、事務局から説明がある。

事務局：（前回配布した資料③及び⑤に基づき説明）

篠原会長：それでは市街地近郊の住宅地区（大池小、南小、南中、門野中）について審議をする。まず全員から意見を伺う。1人当たり最大3分程度でお願いしたい。事務局へ質問のある委員は、御自身の意見の中でお願いしたい。委員全員の発言後に改めて意見のある委員は挙手をお願いしたい。

委員：小学校は、両小学校とも少なくとも令和12年度末までは現状維持で良いと思う。中学校も少なくとも令和12年度末までは現状維持で良いと思う。前回

の懇話会で結論となった北中学校が再編になるならば、南中、門野中のどちらかに行くことになり、多少人数が増えていくので、そこまでクラスが少なくなっていく心配がないため、4校とも現状維持という意見である。

委員：大池小と南小は、令和12年度末まで緩やかに児童数が減少していくので、将来的な児童数の推移を見ながら、必要に応じて統合を再検討する必要があると思うが、当面のところ、状態を注視していくべきと考えている。門野中と南中は、今後の生徒数の減少を考慮し、単学級化を回避するために、いずれは統合を進める方針が良いと思っている。特に門野中は先の意見にあったように、北中の再編を前提として考えた場合に、現在の伊東小の児童の一部は、門野中に進学すると思う。どれだけの生徒が南中に行って、どれだけの生徒が門野中に行くのか分からないが、門野中は、多少増加があり、6クラスを維持していても、どこかで単学級になってしまう。5学級になるところでいずれは統合という考えである。

委員：私も同様に、令和12年度末までは現状維持が適当かと思われる。学級数の問題も大きいし、それ以外にも、もし南小と大池小を統合ということになると、大池小は、吉田地区、荻地区、十足地区に分かれており、学区変更も考えなければならないので、今の時点では現実的でないと考えている。中学校は、北中が統合再編されることで、前回の懇話会でも話に出たが、子供の一部が、門野中に行くという可能性を踏まえると、やはり中学校もこの時点で、門野中と南中の統合を考えるのは現実的ではないと考えている。最後に今後の話で小学校は、北部、中部、南部の3校に分けたときのことを考えると、伊東小と南小はいずれ統合となれば場所の問題もある。ゆくゆくはいろいろなことを考えなければならないが、非常に困難を極めると思う。

委員：資料にもあるが、市内では中学が南部、北部で2校に、小学校は南部、中部、北部で3校にと提案されたときから今までの間に状況が特に改善はされていないので、やはりそこを目指していくべきと思っている。小学校は、令和12年度末まではこのままでいいと思う。その後、大池小は、南小に統合されるということ

が良いと思っている。1か所に、ある程度の規模で小学校、中学校が集中せざるを得ない状況であり、南小が中心になる。中学校は、南中と門野中は結構近い。現在の門野中学区の方は、以前は南中や北中に通っていたこともあるので、この移動はさほど苦ではないのではないかと。私は小学校の統合よりも早めに南中に統合しても良いのではと考えている。具体的に言うならば、準備ができ次第、入学から卒業までの期間である3年ぐらい経過した後に南中に統合しても良いと考えている。

委員：小学校は、当分の間を残していく。中学校は、宇佐美、南、対島の3校が望ましいものと考えている。ただし、基本方針において中学校は、2校程度とある。具体的には、門野中は再編されていくと思っている。中学に上がる時は大池小、南小、伊東小の児童は、多くは南中に進学すると思われる。最終的には門野中の生徒は、南中に行くものと考えている。大池小と南小は、少なくとも令和12年度末までは、学年で2学級が維持される。また、他の地区に比べて、クラス替えができない単学級になる可能性は少ない。時期については、どの地区から再編に着手するかによって変わってくると思うので、何とも言えない。

委員：当面、令和12年度末までは現状維持で良いのではと思う。基本方針にも載っているように、当面は児童数の推移を注意しながらで良いと思う。この地区は広い。特に大池小エリアはすごく広い。知り合いで大池小に通っていた子がいる。自宅から小学校まで子供の足で1時間かかると言っていた。1時間かけて通学する状況は問題であり、通学を手助けできることが何かあればと思う。中学校は、門野中は、北中ほどでないが人数も少なくなっている。当面は大丈夫ではあるが単学級になると、いろいろと問題が出てくると思う。令和12年度以降どうなるか、注意していければ良いと思う。

委員：令和12年度末までは、小中ともに複数の学級が維持されるということで、当面現状維持で良いのではないかと考えている。皆さんから意見があったように中学校については前回の懇話会の中で、北中の再編によって南中、門野中に生徒が通学すると考えると、当面の間は維持していける。小学校は、南小が今年度18

学級で以降学級数が減少していき、令和12年度には12学級となるが、なんとか複数学級を維持していける状況にある。それ以降は不透明であるが、生徒数が減少していく中で、どこまで複数学級を維持できるのか。大池小は昨年度から12学級で、令和12年度末まで維持するというデータになっているが、これも今後どうなるのか不透明である。基本方針にある中長期的な視点で、小学校は北部、中部、南部で3校と考えると、中部に当たる大池小、南小はどの段階で再編成を考えていくのか。今のところ判断が難しい。中学校は同じく基本方針で北部と南部に1校ずつと考えると、南中と門野中のあり方も判断が難しいところである。児童生徒数の減少を見極めながら判断する場が、近い将来必要になってくる。令和12年度以降の児童生徒数がどうなっていくのか。データ、判断材料がない。この場で決めることは難しい。全国的にも同じ問題を抱えている中で、どのように取り組んでいるのか調べてみた。自治体によっては、児童生徒数を50年先まで5年ごとに数値に表して、推計校数をシミュレーションしているところもあった。統合を実施するためには関係者への影響を考慮しながら、準備を進めて早い段階で更新する時期を見極める必要があると示していた。やはり、小中学校の推定児童生徒数をもう少し先も想定しながら、シミュレーションを作っていくことも大事なのではないかというふう感じた。

篠原会長：概ね、令和12年度末まで現状維持というところで一致していると思う。ほかに御意見があるならお願いしたい。

委 員：先ほど、門野中の関係で意見を述べた。再編するならば、1つの案として門野中のグラウンドに宿泊施設のようなものを作る。そしてかどの球場と一体的に利用するのが良いと思う。

委 員：今は、学校の数を減らしていく方向の話であるが、かつては増やしていく議論が何十年か前には行われていたはずである。今はもうない旭小や門野中は、どうしてできたかという、既存の学校が満員になって入りきれなくなったからであり、その中間に1校作ろうということできているわけである。何か特徴がある

学校を作ろうとか、ニュータウンができるからとかそういう話ではなかった。優先して作られたのは、西小や東小、南中だったわけである。定員に満たなくなったので元に戻すということは不可能ではない、支障がないと思っている。人口の推計は、何十年も先までおおよそ分かる。出生率や出生数もそうである。そうすると、必ず先に手を打たなければいけないにもかかわらず、今はこのまま維持でという理由は一体何だろうと私自身も考える。統合して生徒数を増やして先に手を打っておく。多分間違いはない。据え置くことにあまり引っ張られない方が良く全体として感じている。この後、対島地区の審議もある。全体的な議論についての私の考え方と私自身の反省も含めて発言した。

委員：全体的に門野中学校は、統合という話になっている。私もその話を支持する。確かに令和12年度末まで6学級を維持するが、生徒数は着実に減っていく。1年当たり1クラス3人ずつぐらい減っていくとすると、令和12年度4月には1クラス26人ぐらいの規模になっていると思う。伊東市は、20人から30人ぐらいの学級が適正と考えている。20人を切るとなると、学級維持としてはかなり厳しい。2クラスの維持が厳しくなる。令和14年度4月には、20人になる可能性もある。そういう意味では、少なくとも令和13年度末までには統合を検討していかないといけないと思う。他の地区と比較するとまだ差し迫っていないが、期限付きで検討は進めていかなくてはならないと思う。

委員：令和13年度以降の児童生徒数の推移、集計のデータは出していないのか。

事務局：持っているデータは、令和12年度までになる。

委員：令和13年度以降の児童生徒数の推移、集計のデータ出すことはできないのか。

事務局：令和12年度までのデータは、具体的に出せる数値である。出せる数値は、出生から令和12年度までが限界である。令和13年度以降は推計値になり、減少率を掛けて算出するようになる。

委員：基本方針で、将来的に小学校は3校、中学校は2校とある。既存の学校をどういうふうにしていくかという視点も大事だが、出生者が多い地区というのを1回分析して、そして3校と2校を考える。学区を1回撤廃して考えることが必要であると思う。例えば、宇佐美の子供たちが湯川を越えて市街地近郊の学校に来るとなると電車を使うしかない。宇佐美の子供が一定数いれば、大きな問題だが、仮に2人、3人になった場合は、市街地近郊の学校に通うことはやむを得ないという雰囲気も生まれると思う。吉田の子供たちが門野中へ通学するというのは、現実的ではないと思う。今ある学校ではなく、逆に子供が多い地区、その地区から通える学校というのも一つ視野に入れるべきである。そういう見方もしないと通学方法等いろいろな問題が出てきてしまう。中学校は、伊東市内どこでもどうにでもなるような気がするが、小学校は、1年生や2年生はそうはいかない。

委員：伊東市の取組みとして、住んでいる学区の学校に通うというのが基本であり、特例がある。全国の市町村で、自由に学校を選ぶことができる取組みをしていると聞いたことがある。学区を1回見直すのか、それともそれはそれであって、条件を付けずに、通う学校を選ぶことができるのか。

委員：学区の撤廃というよりは、実際子供がどの地区にこれから多くなっていくのか。その地区を組み合わせることで、ある程度学校数が絞れるのではないかという考え方である。例えば南小で言うと、昔は川奈の下の方の子供が多かった。今は全然川奈の上の方の子供が多い。その後、川奈駅周辺の子供が多くなった。さらにその後、弥生ヶ丘の子供たちが多くなってきた。微妙に子供の多い地区が変わっている。令和12年度以降、小学校を3つにしようとなると、今の学校割だけで3校に絞るというのはなかなか厳しい。そのときの子供たちが多く住んでいる地区若しくはこれから多く住むであろうと思われる地区で、学校を作っていくというのも一つの考え方ではないかと思う。

委員：質問を兼ねてになる。宇佐美地区の小中一貫校の案は、いずれは小学校3校、中学校2校ということになると、そのうちの1つに入るか。それとも、別枠

なのか。

篠原会長：そこは、前回の話の中ではっきりと決めたわけではない。小学校を3校にするという段階として宇佐美は小中一貫校とする。義務教育学校にすると、新たな再編をするときに小中一貫校よりスムーズにいかなくなるという捉え方で終わっていたと思う。

委 員：つまり、中学校は2校、小学校は3校プラス宇佐美の小中一貫校なのか。あるいは、宇佐美の小中一貫校も含めての中学校は2校、小学校は3校なのか。中学校は2校、小学校は3校に統合されてしまうのか。いずれも可能性は残るということだとすると、宇佐美の子供が湯川を越えて移動しなくてもいいかもしれない。

篠原会長：それではここで取りまとめたいと思う。皆さんの一致した意見としては、令和12年度末までは現状維持をする。門野中については、いずれは統合する、再編していくという意見が多く出たと思う。よろしいか。

（「異議なし」の声）

篠原会長：次に対島地区（八幡野小、富戸小、池小、対島中）について審議をする。

（前回配布した資料③及び⑤に基づき説明）

事務局：対島地区（八幡野小、富戸小、池小、対島中）及び複式学級について説明する。

篠原会長：まず全員から意見を伺う。1人当たり最大3分程度でお願いしたい。事務局へ質問のある委員は、御自身の意見の中でお願いしたい。委員全員の発言後に改めて意見のある委員は挙手をお願いしたい。

委 員：対島地区は、小学生の児童数が極端に少ないエリアであると感じる。池小の小規模特認校は、他の地区、例えば宇佐美地区から通えるまでしても、人数が増えていない現状がある。小規模でメリットもあるし、小規模特認校だからできることもあるとは思う。ただ、今後残していくのが良いのか悪いのかがまだ分からない。基本的に小学校は、統合するのが良いと思う。しかし、小規模特認校という枠を今後どうしていきたいのか分からない。考えなくてはいけない。富戸小も結構人

数が少なくなっている。職場で富戸小に通わせている保護者がいる。その人の意見を聞くと、人数が少ないから、統合するのは仕方ないが、ただ統合先がどこになるかはやはり気になるようである。例えば、単純に八幡野小の児童数が一番多いから八幡野小に統合となると、通学するのは大変になる。その人は、統合して小中一貫校でも良いし、小学校の統合でも良いが、場所は旧城ヶ崎分校が良いと言っていた。資料を見ると、早ければ令和7年度に一部で複式学級になるとある。複式学級で単純に1クラスで2学年の授業をすると、1学年に比べて1時間の授業が半分になる。足りなくなった分をどう補っていくのか。実際今まで複式学級は無かったのか。複式学級を取り入れたときに、どうなっていくのか。

事務局：以前に池小で一時期複式学級だったときがある。複式学級になると、担任を持たない教員は、配置されないことになる。支援員の見守りを得ながら、担任が1人で複数学年の子供の指導をするということになるので、なかなか難しい部分もある。算数などは、一方に課題を出して個人で学んでいる間に、もう一方に教えるという行ったり来たりの授業になる。一方、技能的な教科では、2学級にまとめた学習の狙いが設置されているので、共通の教材を使って、それぞれの学年に合った到達目標を立てながら、一緒に学ぶということもある。

委員：複式学級になると授業で先生も大変なところもある。早ければ令和7年度から複式学級になるので、今後早い段階で統合を進めていった方が良いと思う。後は先ほど言ったが、小規模特認校をどうしていくべきか。実際、小規模特認校の違いを感じるか。

委員：他の地区から池小が良いと言って来る方が多い。自分で行きたい、やりたい学校に通わせるのは、保護者の方にとってはすごく良いと思う。小規模特認校は、やはり他の地区からある程度生徒が入ってきてくれるという想定だったと思う。それが児童数を見ると崩れてしまっている。多分、小規模特認校を継続しても、いずれ減っていくと思う。もう歯止めがきかなくなっている感じがする。池小の場合は、割と途中から池小に入りたいと言って来る人もいる。多少児童数が変わることで

もあるが、全体的にはこれだけ減っているので考えなくてはいけないと思う。

委員：対島地区は、極端に児童・生徒数が少ないので、多方面で考えていかなければならないと思う。

委員：富戸小、池小は、歴史的な面が根強くある。八幡野小も含めて、特に独自性が強くある。毎年の継続性もある。具体的には富戸小は、民宿に泊まり、地元の定置網船に乗って乗船体験をし、網に入った魚を料理して食べている。池小は、複式学級の編成となる可能性はあると説明でもあったが、複式学級は、子供たちのためにもいかなものかと考えている。八幡野小、富戸小、池小が統合して、対島中と小中一貫校とすべきであると考えている。その場合は、まず旧城ヶ崎分校を市で買い取る。旧城ヶ崎分校は2棟あるので、小中一貫校はそんなに予算もかけなくてもできるのではないかと考えている。また、対島中をどうするかについてはまた後ほど述べたい。いずれにしても、対島地区は、小中一貫校となるというのが私の考え方である。

委員：先ほど私は市街地の学校で満員になったので、旭小ができた、門野中ができたと申し上げた。対島地区は、富戸小や池小は、そういう意味でできた学校ではない。元々その地域の伝統があり、その地域の通学の利便性を、町ぐるみで図ってきた。一つの範囲でその面倒を見るという目的もおそらくあったと思うので、機械的に統合するというのはいかなものか、そんな気はしている。小中一貫校の案については、例えば、富戸小の児童が中学に上がるときに、一貫校に上がるのか、それとも南中に行くのか。一貫性を通じた教育のメリットを生かそうとする中で、南中に行ってしまうことが想定されて果たして良いのか。その問題はあまり考える必要がないのであれば、まず場所が一つである小中一貫校で良いのではと思う。令和12年度末までに整備したら良いと思う。新たな建設や大幅な改修を伴わないなら、小中一貫校と小学校の統合は、時期を分けて先に小学校の統合を進めても良いのではないかとと思う。それから小規模特認校の話が出ている。今、不登校の子供が、小中学校で全国的に増えている。先月も文科省の発表があり、これだけ子供の数が

減っている中でも、逆に不登校の数が増えている。当然伊東市としても様々な対策を考えていると思うが、この統合と再編の機会を通じて、新たな学校に登校できるようにするというのも、別の包括的な課題として考えてはどうか。小規模特認校が持つ機能がどういう役割を果たしていて、それが失われるとなるならば、逆に新たな学校にどういった機能をどういうふうに持たせるかということも検討されるべきである。

篠原会長：令和1・2年度末までにというのは小中一貫校か。

委 員：そのとおりである。一貫校であるメリットがあるというならばそのとおりである。

篠原会長：その前に小学校の統合を進めてか。

委 員：そのとおりである。新築や大幅な改修が必要ないなら、準備が整えばというぐらいに考えている。

委 員：対島地区は、最終的にはウィンウィンの関係になる、統合がマイナスに働くのではなくて、プラスに働くような形にすることが第一である。富戸と八幡野と池は、非常に通いにくい場所である。通学方法をどうするのか。旧城ヶ崎分校に新たな学校という話があったが、場所によっても伊豆急、路線バスと通学方法が変わってくる。小規模特認校の今後の計画は分からないが、保護者や地域の意向を聞きながら進めていくことが非常に大事であると思う。今発言したことを踏まえて、3案ある。一つ目は、場所がすぐに整わないのであるならば、八幡野小と池小を統合して、その後3校統合できるような場所ができたところで、富戸小を含めて、3校を統合する。二つ目は、場所が最初から整っていて、いろいろな状況が解決できるのであれば、3校同時に統合ということもあり得る。三つ目は、特認校ということを考えれば、ここ数年で特認校を富戸小に持っていき、富戸小の子供が増えていく可能性があるのかわからないのか見ていく。ただ、最終的には小中一貫校にした方が良く思っている。小中一貫校は、場所の問題が出てくる。対島中をそのまま小中一貫校にするということは難しいと思う。旧城ヶ崎分校を小中一貫校にすると、整備

時期、交通事情、保護者・地域の意向等を踏まえて考えていかなければいけない。期限は、いろいろな条件が整わなければ進められないので、いつまでということは言えない。しかし、令和12年度末までには少なくとも、こういう方向性だという結論を出す。状況を見ながら決めていかなければいけないと思う。

篠原会長：令和12年度末までに方向性を決めてというのは全てのことを含めてか。

委員：結論は、小学校3校と対島中も含めてである。実施はもっと後でもいいと思うが、方向性だけは、令和12年度末までに結論を出す。

委員：方向性としては、富戸小、八幡野小、池小の3校が統合して対島中と連携した小中一貫校にすると考えている。小学校は、複式学級に差しかかっているの、で、時期は2段階と思っている。小学校の統合の期限は、いつまでというよりは、最短でという考えである。中学校は、令和12年度末までには小中一貫校にと思っている。対島地区は、地域性がすごくある。それぞれの地域の良い部分がなくなるというよりは、良い部分をより多くの子供たちが体験できるという新たな小学校にする。その可能性が非常にあると思っている。それぞれの地域住民の方に御理解いただく必要がある。割と今は、池地区に関しては外部から移住してくる方が多い。ある程度地元理解を示しつつ、現実的なところで統合していけば、受け入れられるのではないか。今年は、富戸小、八幡野小、池小は、修学旅行に一緒に行っている。いろいろな行事を一緒にやる機会が非常に増えているので、子供たちが一緒に何かをするということにそんなに抵抗がなくなっていると思う。段階というのは、小学校3校をまず速やかに統合する。それから中学校と統合する。交通問題は、対島地区に限らず、全地区共通である。統合とセットの問題だと思う。学校が少なくなっていくということは、歩いて通う子供が減ってくことである。子供たちの通学をどう担保していくか。対島地区に関しては、親の送り迎えが非常に多い。私も小学校と中学校に子供がおり、朝は全部送りである。もう慣れており、そういうものだと思っている。仮に学校の場所がどこになったとしても、送り迎えの形はあまり変わらないと思う。先ほどあったが、学校を選べるという意見である。送り迎えす

るからこの学校に通いたいということもあり得るかもしれない。各地区の児童生徒の人数バランスが変わるかもしれないが、学校を選べるのも良いと思った。

委員：対島地区は、義務教育学校か小中一貫校でまとめても良いと考えている。時期に関しては、令和7年度に複式学級になるが、さすがにそれまでの統合は間に合わない。時期に関しては、曖昧な言い方になってしまうが準備ができ次第と思う。富戸小と池小は、どんどん人数が減っていく。池小の小規模特認校をどうしていくか。疑問があり質問する。義務教育学校や小中一貫校にした場合に、（クラス替えをしない）希望制のクラスを準備するのは可能なのか。例えば、3クラスあったとして、2クラスは、クラス替えをしながら6年間を過ごす。残りの1クラスは、特に（クラス替えの）希望がない限り、その1クラスで6年間を過ごす。そういうクラス編成が、義務教育学校や小中一貫校でもできるのか。小規模特認校の表面的な部分しか取れていないと思うが、人数が少ないクラスでやっていけるのか。

事務局：小規模特認校である池小学校は、教育課程の作り方や行事のやり方、様々な連携の仕方で特色があり、それは学校全体で取り組んでいかなないとなかなか難しいことである。3校統合した規模の学校で、その1クラスだけ別のカリキュラムで進めることは大変難しく、そのようなカリキュラムの組み方をしている学校は聞いたことがない。

委員：八幡野小は、今年度までしばらく12学級を維持していて、来年度から毎年1学級ずつ減少していき、令和12年度には単学級ということなので、ここがターニングポイントであると思う。富戸小と池小は、令和7年度から2、3年生が複式学級になる見通しなので、やはり判断が迫られていると感じている。この令和12年度を見ると、富戸小は47人ということで、1クラスの平均が8人になる。池小は38人ということで、同じく1クラス平均が6人になる。ほとんど複式学級になってしまうと感じた。池小は、令和6年度の新入生が5人ということで、今後5人以下で推移しそうだということがあり、あまりにも少なすぎる状況を維持していくと、中1ギャップの心配が大きくなるのではないかとも思う。基本方針にある3

つの小学校に統合していくという方針や、対島中を含めた小中一貫校にするという考え方の中で、まずは、児童数の減少が著しい池小の再編を検討する必要があると思う。池小も富戸小もその学校地域ならではの取組みがあり、愛着も深いので、地元住民との関わりやコミュニティを失わないようにどう配慮していけるのかが課題であると思う。保護者や地域住民に対して必要な情報を提供し、時には声を聞く等の可能な限り、気持ちにも寄り添いながら進めていくことがとても重要である。放課後児童クラブの関係者とも、しっかり先の見通しについて話をしていかななくてはならない。地域コミュニティスクールの取組みが池小、富戸小、八幡野小で進んでいく中で、学校運営に積極的に関わっていただいているし、地域住民の方にも子供たちの育ちに主体的に取り組んでいただけるような形で進めていかないと、住民の反対が大きくなってしまう。前に進まなくなる。そこを模索していく必要があると思う。皆さんの意見の中でもあったが、私自身もいずれは小中一貫校を旧城ヶ崎分校でと考えている。市が旧城ヶ崎分校を買い取った方が良いのではないかなと思う。校舎の状況、広さや場所を考えると旧城ヶ崎分校が良いのではないかなと思う。いきなり小中一貫校というよりは、まずは池小の再編、八幡野小に統合する方向で行くのがスムーズなのではないかなと思う。以上である。

篠原会長：富戸地区と池地区で関わりのある、委員に御意見を再度伺いたい。

委員：先ほど、対島中をどうするかについては、後ほど話をするとだったので、話をする。旧城ヶ崎分校を市で買い取ったのなら、対島中は、半分は駐車場にして、半分は公園にするという活用方法があるのではと思っている。

委員：本当に地域の方との結びつきが強いと感じる。他校の父兄の方とお話したときに、参観日ぐらいしか学校に行かないと言っていた。対島地区は、それ以外で学校に行く機会が多いような気がしている。行事に、父兄が参加することは非常に多い。池区の青年会が学校に対して様々な協力をしている。これからも、地元の学校に通う子供たちを支援していくというスタンスは変わらないと思う。仮に統合により地区が広がったとしても、池小の子供たちに対してやっていただいているこ

とを、対島地区の子供たちにしていくという形になってくれば、地区の子供たちを育成するという意味で非常に有意義である。同じく富戸の地区の方も、富戸の子供たちだけでなく、八幡野や池の子供たちに対しても、いろいろな体験ができるように協力してくれる形を作ることができれば、非常に理想的であると思う。対島地区は、場所の問題というよりも、地区との結びつきが強い故の理解に時間を費やす必要があると思っている。場所は、やはり旧城ヶ崎分校の土地というのが父兄としても非常に使いやすいと思う。駐車場も旧城ヶ崎分校の方が多い。対島中で行事があると大体旧城ヶ崎分校の駐車場を借りているので駐車し、対島中に歩いて行く。旧城ヶ崎分校の土地なら利用しやすいと思う。

篠原会長：これまでの意見を聞いて発言のある委員はいるか。

委 員：先週、国際交流フェスタが観光会館の別館で行われた。国際交流協会が主催である。国際交流協会を構成しているメンバーは、もうかなり高齢化している。皆さんボランティアで、みんなで広報の資料を作ったり、日本語教室を開いたりというのを長年やっている。しかし、このままでは多分活動がやっていけなくなる。国際交流フェスタも、実際にはその前日に市役所の方々もかなりお手伝いされていた。70代、80代の理事の人たちがいすを運んだりもしている。現実はあるゆる団体、どこを見まわしても高齢化の問題がある。玖須美区も、体育振興会的の活動はやめた。運動会がなくなり、スポーツ大会もなくなった。お祭りも高齢化のため、結構縮小してきた。どのように地域が成り立ってきたかという、子供たちの教育のために、地元の住民もしっかりやろうと、地域の方たちが頑張ってきたからである。小さい地域でも、大きい地域に負けないような育て方をしようと思っていろいろ工夫してきた。しかし、熱心にやられてきた方たちもみんな高齢化しているというのが現実である。だから、子供の少人数化の将来推計を見るのに合わせて、地域の高齢化、どれだけの地域力がこれから期待できるかということも考えないといけない。これからの学校に対応するために。これは、学校教育だけの問題ではない。地域の方にお声を聞くと、頑張っていてやっていくぞとは言うけれど、ある日突然入院

してしまって参加できなくなる方がたくさんいる。そうすると、残念ながらこれまで発揮してきた力やそのノウハウの継承伝承が、うまくいかないまま終わることもある。そういうことが今起きている。しかし、頑張ってこられた方はこれからも頑張らずっと支えるぞという気持ちを持っている。とは言え、個人の力に頼るのではなく、システムの力、あるいは公共の力に変えていく提案も合わせてやらないと、安心して引退できない。大丈夫だから任せてくれということも併せて提案をしていかなければいけない。統合しても、文化の保存活動、美化推進、防災活動のさまざまな活動をやってこられた方が安心して引き継いでいける、大丈夫だからという提案をした上で、御意見を伺うという流れにしていかなければいけない。時代の流れだから仕方がないという残念な気持ちにならないために、その方を尊重していかなければいけない。地域をまとめるために、重要な点であると思っている。

委員： 前回の会議後に、宇佐美地区と北中地区の審議結果が新聞報道された。その後、学校で集まる機会があり、直接保護者の方から話を聞いた。保護者からいろいろな意見が結構出てきた。今回の会議後に、新聞報道があると思う。新聞を見て、いろいろな意見が出てくると思う。今後は、そういった地域の意見を汲み取って土台作りをしていけば、今後の話し合いもスムーズにいくと思う。

委員： 地域を生かした教育、地域と連動・協働を図って、地域の歴史や文化の伝承、継承をしていくというのは大変重要である。地域の強みを取り入れながら、今後さらに検討を重ねていく必要があると考えている。

委員： 前回の懇話会後に保護者から出た御意見は、統合すべき、すべきでないという根本的な御意見だったのか。そうではなくて、統合のあり方や統合後の学校についての御意見だったのか。

委員： 出た御意見は、宇佐美は小中一貫校ではなくて、北中で小中一貫校にした方が良いのではというものだった。北中の方が高台にあり、防災の面のことを考えたら適しているという意見であった。そうすると、統合した伊東小をばらさないといけない、結局何が良いのだろうという話になった。

篠原会長：池と富戸は、本当に地域の特色がとても強い。住民の方の理解を得るために、しっかり話し合いをし、進めていくという意見にすごく賛同する。富戸の方から御意見を聞いたことはあるのか。

委員：学校統合となれば、郷土芸能の継承が非常に困るという意見を聞いた。審議をして統合が具体的になると、またいろいろな意見は出てくると思う。

篠原会長：池はどうか。

委員：これからいろいろな意見が出ると思う。統合したら伝統の継承がなくなる、だから反対という意見に対して、地元の文化を継承できる統合をどうやっていくか、みんなで考えるような場を作っていく必要があると思う。統合すると伝統の継承がなくなるという話になると、皆さん反対する。伝統の継承、文化の良さをどう繋いでいくかという議論ができるように、動けたらいいと思う。

篠原会長：皆さんの意見として、いずれは小中一貫校と考えている。良いと思う。ただ、どういうふうに段階を踏んでいくのかについては、急いで決定しない方が良いと思う。令和12年度末までに方向性を決めていくが良いと思うが、時期については、どうだろうか。

委員：話し合っていることは、あくまでも案である。私も含めて皆さん微妙な意見の違いはあるけど同じ方向を見ている。令和12年度末というのは一つの目処だと思う。それまでに早くできるものであれば、早くというところである。ただ、地域との結びつき、登校のときの道路事情や通学バス、校舎をどこにするのかという問題などを考えると、仮に案として令和12年度末までとなったとしても、市が進めていく整備が追いつくのか、追いついてこないのか。宇佐美地区のこともあるし、北中のこともある。市全体の兼ね合いがある。一度に全地区は、不可能だと思う。いろいろなことが重なってくる。将来的な方向性は、令和12年度末までかもしれないが、皆さんのさまざまな御意見が反映された案に決定すべきである。過程をないがしろにしてはいけない。また、我々委員は、言葉も慎重に選んで発言しなければいけない。北中はなくなる、廃校ではなく、統合や再編という発言にしない

と、北中学区に住んでいる方もやっぱり思うものがある。言葉を慎重に選んで発言していきたい。

委員：地域のことやいろいろな市の事務的な都合もあるが、子供たちの今現在の状況と、2、3、4、5年後の状況に置かれる状況、将来どのように育っていくのかを考えると、ここはもうぶれてはいけない。子供たちの将来的な利益は考えなければいけない。令和12年度末までに具体的に考えるでは、あと5年も先の話である。そこまで先延ばしする必要が果たしてあるのか。その数年間で、子供たちが被るかもしれない不利益があるとするならば、どうしてもっと早く手を打てないのかと思う。校舎を新築にする、大幅な修繕でコストや期間がかかるとするなら、それは必要かもしれない。市内には活用していない公共の施設や空き学校が結構あるので、その建物を活用すべきである。統合で2校、3校分の児童生徒を入れることができる学校が多いので、建設の改修コストや期間が必要ないなら、どうして早く進めないのか。疑問である。令和12年度末までに具体的に考えるというのは、少し遅いのではないか。

委員：令和12年度末までとは、小中一貫校の整備が完了し、令和13年度4月から小中一貫校がスタートするというイメージである。令和12年度末までは様子を見て、それから検討して3、4年後というイメージではない。ただ、小学校は令和7年度4月から複式学級が始まるので、3年後に改めて考えるは、遅いと思う。令和13年度4月から小中一貫校というよりは、複式学級の問題がある小学校をまずできるだけ早く進めるべきと思う。

篠原会長：一度で小中一貫校にするのか、それともまずは小学校の可能なところから統合を始めて、小中一貫校にするのか。皆さんどうだろうか。

委員：小学校を一度でまとめて、その後に小中一貫校になっていくと、小学校の途中から統合になって、またその途中から統合で小中一貫校になると何回も環境が変わる児童もいる。その度に、地元や地域の方に説明をする必要がある。一度で説明をした方が良いのではと考えている。そして地域住民の方とお話をしていく中

でいろいろな課題が出てくると思うが、平日は毎日通って、毎日クラスメートと基本的に会う子供たちの教育環境を整える方が優先されるべきであると思う。統合に当たり、地域の文化等の問題が一番のネックになってくるのは、違うと思う。時期については、先ほど令和12年度末までにと申し上げたが、なるべく早く。具体的な時期は言えないが、早いタイミング、一度で小中一貫校にする。

委 員：遅くとも令和12年度末までには、速やかに統合は進める。いきなり小学校3校を一緒にするのか、まずは池小と八幡野小を一緒にして、その後富戸小が一緒になる、その後一貫校にするのか。進め方で整備期間が変わってくると思う。場合によっては保護者にアンケートをお願いしたり、地域住民の対応等も考えなければいけない場面も出てくるかもしれない。あくまでも最終リミットは令和12年度末までであるが、これから6年間何もしないのではなく、できるだけ速やかにいろいろなものが整えば、どんどん進めていく。一度に3校統合という意見であれば、それに合わせた整備時期がある。

篠原会長：他に整備時期について意見はあるか。小中一貫校まで段階を細かく踏むほど、子供たちは統合に振り回されるという状況になる。子供中心に考えると、一気に小中一貫校とした方が良いと思う。段階をどう踏むかについて意見はあるか。

委 員：整備時期は、もう早ければ早い方が良い。話自体も早く進めてった方が良いと思う。令和12年度末まで待たずに、前倒しできるなら前倒しした方が良い。地域との話し合いももちろん大事である。しかし、最優先事項は、子供たちだと思う。保護者を中心にどんどん話し合いを、意見を取りまとめるべきである。保護者は、こうしてほしいという要望がある。保護者の意見を尊重していく必要がある。1回で統合が完了するのが良い。その都度編成、編成となると、子供たちも大変だと思う。段階的な編成をするにしても、できれば小学校の統合は1回で済ませた方が良いと思う。

委 員：小中一貫校を目標として捉えると、場所は旧城ヶ崎分校の土地が良いという意見があった。事務局側でこの土地は可能であるや、適正地があるというもの

があるのか。何か決まっていることがあるのか。

事務局：旧城ヶ崎分校については、県教委から市として活用を検討したいかという話はある。学校用だけではなく、市の別の施設で使用するという意味も含めてである。旧城ヶ崎分校の購入や譲渡については、県教委と話をすることはできる。施設の中身を見ると、元々は高校であり、小中学校の仕様になっていない。例えば、小学校は階段の高さが決まっている。高校なので少し高い。給食用のエレベーターがないので、作る必要がある。トイレは、和式が多いので、洋式トイレへの改修も必要である。改修費用というのは全くゼロではない。旧城ヶ崎分校に学校をまとめるという御意見があれば、今後事務局として県教委に働きかけていきたい。

委 員：旧城ヶ崎分校はできてから42、43年経つと思うが、まだまだ使用できる状況か。

事務局：見た感じでは、まだまだ使用できると思う。

委 員：旧城ヶ崎分校の土地を県から買って小中一貫校として整備してとなると、5、6年とかかるのか。1、2年では厳しい感じがする。

事務局：県との協議から土地の取得、整備となるとそれなりの時間を要する。

篠原会長：いずれは小中一貫校っていうことで一致したと思う。整備時期については、いろいろな御意見がある。懇話会では、一つの意見に絞らなければならないのか。

事務局：一つの意見に集約しなくても構わない。意見が3つあったでも構わない。

委 員：いろいろな意見があるので、併記すれば良いのではないか。

委 員：もし小学校だけ3つ一緒にするとなると、八幡野小が使用される予定なのか。

事務局：収容能力は、大丈夫であると思うが、具体的に使用する学校については考えていない。

委 員：小学校の統合、小中学校の統合で、2回教育環境が変わるというのは、非効率だと思う。段階的に小学校が一緒になって、小中一貫校になるならば、場所

は既に決まって小学校が先に入って、そして小中一貫校になると思っており、その場所が旧城ヶ崎分校であると捉えている。ただ、県からの土地の取得や市の改修が、最初から旧城ヶ崎分校で新たな学校を開始する障壁になるなら、小学校だけ別の場所で統合も仕方ないと思う。

委 員：6年間に2回引越しをするのは可哀想であるが、1回はどうしてもない。適切なタイミングがあれば良いが。とりあえずは、統合で新しい学校に移り、旧城ヶ崎分校に何年か後に移り、子供の最大の引越し回数は2回であったなら良いかもしれない。

篠原会長：ここでまとめていきたい。令和12年度末までに、小中一貫校にする意見と、令和12年度末までに方向性を決めるという意見があった。小学校については、まずは池小を八幡野小に統合するという案と、3校同時に統合するという案があった。いずれにしても住民や保護者の方には、将来性をできるだけ示した上で進めていく。以上でよろしいか。他に何か御意見ある方はいるか。

委 員：場所は、旧城ヶ崎分校という案もあるが、それは手続等の問題もあり、どうなるか分からない。不確定な要因によって、統合する年度は左右される可能性がある。個人的には令和12年度末までには小中一貫校に整備すべきであるとは思っている。場所やその他は、いろいろな要因が確定し次第、合理的に進めるというぐらいの感じ良いと思う。小学校を先に統合して、後で中学校も統合する可能性も残しながらで良いと思う。

篠原会長：他に何か御意見がある方はいるか。

(意見なし)

篠原会長：本日の審議は、以上で終了とする。次に移る。「次回開催」について事務局の説明を求める。

掬川課長補佐：第4回は12月24日の火曜日午後2時から、低層棟3階議会事務局委員会室で開催する。次にこの場で第5回の日程調整を行い決定したい。

(委員に候補日の説明し、第5回は令和7年1月27日の月曜日午後2時から7人

全員出席で開催することを決定する。場所は低層棟３階議会事務局委員会室になることを報告する。)

篠原会長：最後に事務局から何かあるか。

事務局：会議録の公開について説明する。会議録のホームページ公開は、会議録への会長署名後になることを説明する。

今までの教育問題懇話会で配布した資料について 次回以降も必ず持参するよう依頼する。

篠原会長：これをもって本日の会議は閉会とする。

以 上